

## 口唇口蓋裂について

### 1. 口唇口蓋裂のいろいろな型

生まれつき唇(くちびる)が割れているものを唇裂、上あご(口蓋)が割れているものを口蓋裂といい、両者を合わせて口唇口蓋裂(または口唇裂口蓋裂)と呼ばれることもあります。口唇口蓋裂にはいろいろな型があります。



- ・唇裂:唇だけが割れています。唇の一部が割れているものを不全唇裂といいます。
- ・唇顎裂:唇から歯ぐきまで割れています。
- ・唇顎口蓋裂:唇から歯ぐきを通して口蓋まで割れています。
- ・両側唇裂:唇が2ヶ所で割れています。
- ・口蓋裂:唇は割れていなくて、口蓋だけが割れています。

日本では500人の出生に1人の割合で口唇口蓋裂のお子さんが生まれており、生まれつきの病気の中では多く見られるものの一つです。昔に比べると、治療法も改良が重ねられてきていますので、適切な年齢で正しい治療を受ければ、正常に近い外見や言葉・食事などの機能を獲得することができますと言えます。

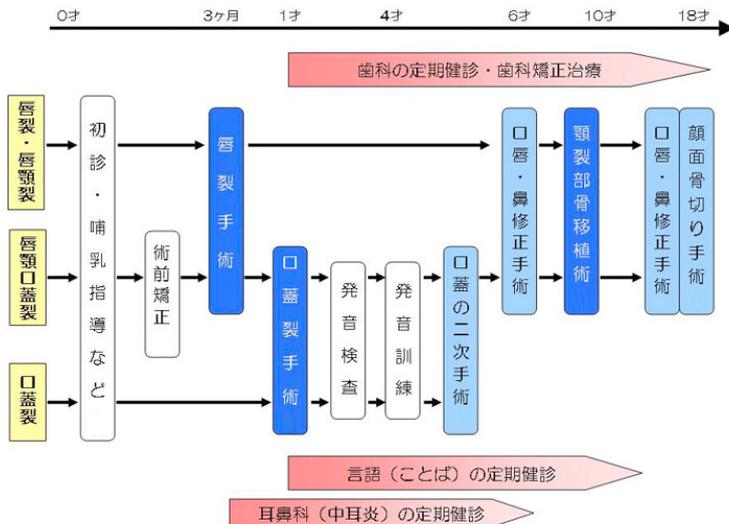
### 2. 治療の手順

口唇口蓋裂の患者さんでは口唇(くちびる)・歯槽(歯ぐき)・口蓋(うわあご)が割れているために、外見上の問題だけでなく、歯並びや言葉の問題もおこります。また、耳の中耳と鼻は耳管とい

う細い管でつながっていますが、口蓋裂のある患者さんの場合は耳管の機能が悪く、中耳炎をおこしやすいといわれています。

このように口唇口蓋裂の患者さんではさまざまな問題がおこるため、形成外科だけでなく、歯科・耳鼻科・言語治療士などさまざまな専門家が診察や治療にあたります。埼玉医科大学では明海大学歯学部などと共同で口唇口蓋裂の患者さんの治療にあたっています。

顔の骨・歯並び・言葉などは患者さんの成長にしたがって変化しますので、患者さんの成長や年齢に見合った治療をすすめていきます。とくに、口蓋裂手術が終了してから小学校入学までの期間は、歯並びや言葉などが大きく発達していく時期です。歯並びや言葉に問題が起きた場合、なるべく早めに発見して、適切な治療を行うことが大切です。1年に1~4回くらい定期的に通院していただき、形成外科・歯科・言語治療士などがそれぞれの専門分野について診察していきます。顔つきや顔の骨は15歳から18歳ころまで成長し続けますので、このころまで定期的な診察を継続します。



### 3. 哺乳について

口唇(くちびる)や口蓋(うわあご)が割れていると、口で吸う力が弱いためにミルクを上手に飲めないことがあります。口蓋裂用の哺乳瓶は吸う力が弱くても上手に飲めるように工夫されていますので、ほとんどの患者さんは自分の力で飲めるようになります。

大きく開けたりしないで下さい。このようにすると、吸わなくてもミルクが出てくるため、ミルクを流し込んでいる状態となり、口の動きが正しく発達しません。また、ミルクが気管に入ってむせることもあります。

最初にミルクを飲む量が少なくてもあせらないで下さい。赤ちゃんがミルクを吸う力は、最初は弱くても徐々に上達していきます。ミルクを飲む量が少ないからといって、哺乳瓶の乳首の穴を

離乳食のはじめのころは、鼻から食べ物が出てくるがありますが、食べ方が上手になってくると鼻からもれる回数も減ってきます。

### 口唇口蓋裂について

#### 4.唇裂手術の術前矯正(哺乳床)

唇顎口蓋裂のように歯槽(歯ぐき)が割れているお子さんに行うことがあります。入れ歯のようなプレートを作って上あごに入れ、歯槽や口蓋の形を整えます。これによって、唇裂手術や口蓋裂手術が行いやすくなります。また、鼻と口をへだてる事によってミルクを飲みやすくなります。

プレートの作成は矯正歯科で行います。1~2週間に1回通院して、プレートの形を合わせる必要があります。

【術前矯正のプレート】



#### 5.唇裂手術

赤ちゃんの手術は全身麻酔をかける必要がありますので、ある程度の体力がつく生後2~3ヶ月まで待って行います。体重は4kgを越えることを目安にしています。

唇裂手術では、傷あとや唇のくびれなどが全く無いように治療することはできません。しかし、手術の方法や器具の進歩によって、以前よりも目立たなく治せるようになってきました。例えば、引きつれを目立たないようにジグザグに縫合する、傷あとが自然な「しわ」などに隠れるようにする、などの工夫をしています。埼玉医科大学では、両側唇裂の場合も両側同時に手術しています。皮膚だけでなく、粘膜(くちびるの裏側)や筋肉もしっかりと縫合しますので、手術の当日からミルクを飲むことができます。

また、患者さんによって程度は異なりますが、口唇口蓋裂では鼻の変形をとまなう場合がほとんどです。これは、鼻の軟骨の一部が割れていない側よりも小さく、ゆがんでいるためにおこります。埼玉医科大学では唇裂手術のときに鼻の変形も同時に整えてきます。

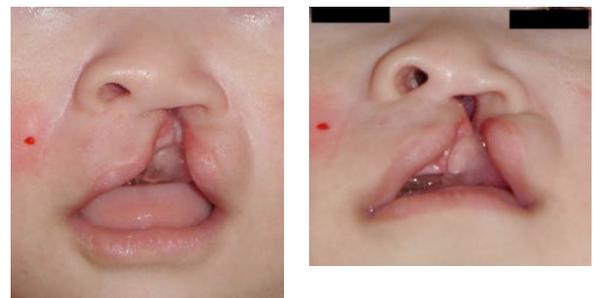
手術時間は1~2時間程度で、出血量はごく少量ですので輸血の必要は普通ありません。入院は1週間前後で、手術から1週間後に傷を縫った糸はずします。手術後は割れていた唇がつながるために、ミルクが飲みやすくなります。

【片側唇顎口蓋裂の症例】

術前矯正前



術前矯正後:約3ヶ月の矯正治療によって、割れ目の幅が狭くなり、鼻の変形も改善しています。



唇裂手術の術後1年



【片側の場合】



【両側の場合】

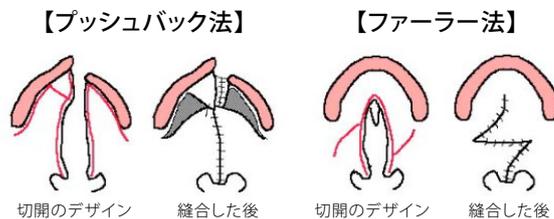


### 口唇口蓋裂について

#### 6. 口蓋裂手術

口蓋裂をそのままにしておくと、口と鼻の仕切りがないために、ことばが全て鼻に抜けたような声になってしまいます。そのため、口蓋裂を閉じる手術は、ことばが始まる前の1歳～1歳半に行います。手術がこれより早いと歯槽や口蓋の成長に悪影響を及ぼすといわれています。また、手術時期が遅れると、発音のくせが残ることがあります。

口蓋裂手術の方法はいくつかありますが、埼玉医科大学ではプッシュバック法かファーラー法で行っています。



唇顎口蓋裂など、割れ目が大きい場合はプッシュバック法で行います。この方法は歯槽(歯ぐき)の後ろまで切開しますので大きな口蓋裂を閉鎖できますが、歯槽や口蓋の成長障害をおこすことがあります。

割れ目が大きくない場合などはファーラー法で行います。この方法は割れ目の部分をジグザグに縫合する方法で、成長障害をおこしにくいといわれています。唇顎口蓋裂の患者さんで術前矯正を行った場合は、ファーラー法で口蓋裂を閉鎖します。

手術時間は1～2時間程度で、輸血の必要は普通ありません。入院は10日間前後です。手術の翌日より、口から流動食を食べられるようになります。傷の状態をみて、少しずつ固い食事に上げていきます。口の中は溶ける糸で縫いますので抜糸の必要はありません。

#### 7. ことばについて

口蓋裂手術の前は口と鼻が通じている状態ですので、手術前の赤ちゃんの声は鼻に抜けたようになり、「パパ」「プープー」などのことばを上手に発音することができません。

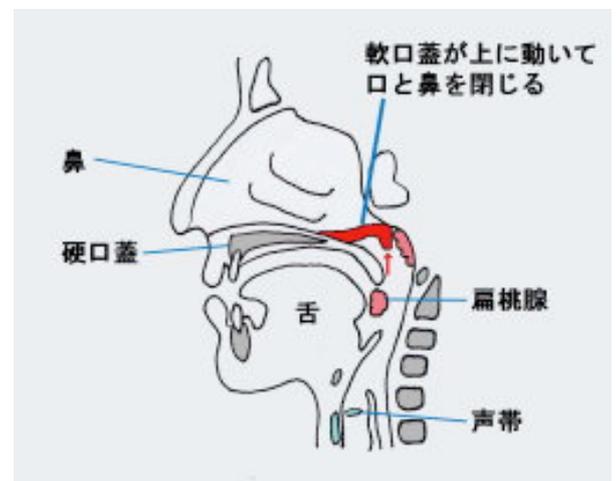
口蓋裂手術では割れ目を閉じると同時に、軟口蓋の筋肉を縫合します。この筋肉が動くことによって口と鼻をしっかり仕切ることができるようになります。このような口蓋のはたらきのことを鼻咽腔閉鎖機能といいます。笛やラッパなどを吹くときに鼻咽腔閉鎖機能を使いますので、手術後はこれらの遊びを通じて練習してください。

口蓋裂手術が終わったあとは、ことばの発達をフォローアップします。なかなか発音が改善しないこともあります。4歳ころまでは自然に発達したり、治ったりする能力が強いため、原則として訓練や再手術などは行いません。

4歳になっても発音のくせがあり、治した方がよい場合は言語訓練を行います。鼻に抜けるような声になっている場合(鼻咽腔閉鎖機能が悪い場合)は、レントゲン写真などの検査をした上で口蓋の再手術を行うこともあります。歯並びが原因で発音が悪くなる場合がありますので、入れ歯のような器具を使って発音の手助けをすることがあります。

小学校入学までの時期はお子さんが正しいことばを学習する大切な時期です。ですから、ことばの問題は幼児期のうちに解決するというのが私たちの基本的な考え方です。

#### 【口蓋のはたらき】



## 口唇口蓋裂について

### 8. 歯並びについて

#### 1) 歯並びの問題

口唇口蓋裂にともなう歯並びの問題には次のようなことがあります。

- ・ 歯の本数が少ない、歯が小さい
- ・ 歯がねじれて生えてくる、歯並びが凸凹
- ・ 上あごの歯並びが狭く、下あごと合わない

#### 【顎裂の三次元CT(矢印が顎裂)】



これらはおもに、顎裂(歯ぐきの割れ目)があるためにおこる問題です。顎裂があると歯の生える場所が少なく、歯槽(歯ぐき)が狭くなりやすいため、歯が凸凹に生えてきたりします。また、口蓋裂手術などの影響で歯

槽や口蓋(上あご)の発育が悪くなることも原因の一つです。

#### 2) 乳歯列期の治療

乳歯が生えそろう、3歳～5歳でかみ合わせに問題がある場合は、歯型やレントゲン写真などの検査を行って、治療計画を立てます。この時期には、金属製の器具を使って発育の悪い歯槽や口蓋を広げる、などの矯正治療を行います。乳歯列期は歯槽や口蓋が大きく成長する時期ですので、このような治療の効果が高い時期です。

埼玉医科大学では、口蓋裂手術が終わるころまでには矯正歯科へご紹介しています。まだ、矯正治療を始める年齢ではありませんが、お子さんが歯医者さんに慣れていただくことと、むし歯などができないように定期的に診察を受けていただくために、早めにご紹介しています。

#### 3) 顎裂部骨移植術

乳歯から永久歯に生え変わる、6歳～10歳に行います。どの年齢で行うかは、お子さんの歯の状態によって決定します。

顎裂部骨移植術は、顎裂に骨を移植して、割れている歯槽をつなげる手術です。手術時間は2時間程度で、輸血の必要は普通ありません。現在では、ご本人の腰の骨(腸骨)を移植する方法が一番確実ですが、歩行障害などの後遺症はほとんどありません。

#### 4) 永久歯列期の治療

顎裂部骨移植術のあとは新しくできた歯槽に歯を移動して、歯並びを整えます。歯に直接、金属製の金具(マルチ・ブラケット)をつけて歯を移動します。思春期ころまでに矯正治療を終了することを目標にしていますが、いわゆる「受け口」などのように下あごの歯並びと合わない場合は、顔面骨切り手術を行うこともあります。これは、上あごや下あごの骨を切って上下のかみ合わせをあわせる手術で、普通は顔の骨の成長が止まった後、18歳以降に行います。